

13th JCF学生映画祭 in 山形

報告書

第13回 JCF学生映画祭
入選作品



第13回開催特別プログラム

学生監督の夢を実現するカンファレンスプログラム開催
＜スカラシップ検討会＞

第13回目を迎える日本最大級の学生映画の祭典
東北初開催!!

応募総数257作品の上位6作品
入賞監督受賞コメントを掲載

主催：JCF学生映画祭実行委員会 共催：一般社団法人 学生のチカラで日本を元気に
制作・運営：JCF学生映画祭運営事務局 協賛：CNCs 張映画社 YONAGI 京都フィルム

www.jcf.jp.com

夢への階段

駆けのぼれ

【次回JCF学生映画祭 速報】

2015年度の第14回JCF学生映画祭は東京開催決定!
JCF学生映画祭にガクチカ観光PRアワード映像部門を新設!
2つの企画が一体となって学生の映像のチカラで日本を元気に!

ガクチカ観光PRアワードのあゆみ

学生が見て感じている地域の魅力を全国、全世界へ。

学生の手で地元地域の魅力を日本全国に届け、地域活性化、そして日本を明るく元気にするを旨とし2012年に第一回を開催いたしました。
第二回は、決勝戦を岩手県で行い、ガクチカ観光PRアワードの決勝戦出場者が、岩手県陸前高田市で地域活性化ワークショップに参加し、少しでも、日本が、被災地が元気になれるような貢献を目指し、開催しました。
そして今年度の第三回は「あなたのまちの水と自然の美しさ」という環境をテーマに学園祭実行委員会対抗で行って参りました。
第一回、第二回、第三回とそれぞれテーマを設定し成長を続けた都道府県対抗・学生観光PRアワード。
これまでたくさんの大学生が携わり作り上げてきましたが、「地元について考えるきっかけになった」「今まで知り尽くしていると思っていた地元の新たな魅力に気がついた」「参加したことをきっかけに地元の方と新しい試みに挑戦中です」という気づきと発見の機会になったと多くの学生からの声が届いています。
日本の魅力は何ですか?あなたの地元の魅力は何ですか?と聞かれたら、あなたはいつ答えられますか?新たな気づきと新たな結びつきの機会を全国に与え、魅力を発信する企画としてこれからも成長していきます。



◎第一回

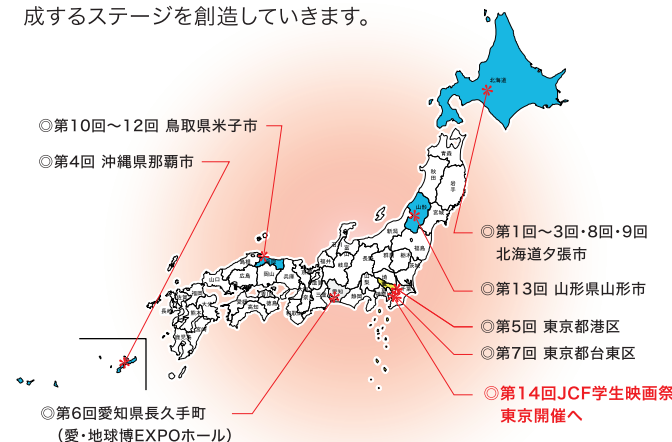


◎第二回

JCF学生映画祭のあゆみ

若者の夢を引き受けるステージを創造したい。

今年で第13回目を迎えた「JCF学生映画祭」は、「世の中に貢献する才能の発掘・育成」をコンセプトとした学生映画祭です。一過性のイベントで終わるのではなく、一貫して「才能の発掘と育成」を掲げてきたことで、多くの若者の注目と支持を集め、日本を代表するインディペンデント映画祭となりました。
「JCF学生映画祭」は、これまで13回の開催を数え、学生に例えると、小中高を卒業し、いよいよ大学生になりました。第13回JCF学生映画祭からは、学生映画祭のあり方を見直し、開催テーマの主旨にたちかえり、「才能ある監督の発掘と育成」を目指してまいります。優秀な作品を発掘するのではなく、過去のスカラシップ作品制度等の観点から、学生監督がプロスタッフと触れあい、新作を作り上げていく経験により得るものや、過去の歴代受賞監督のその後の活躍をみると、監督としての素質をのばし、次なる成長へのステップになるような仕組みを内包した学生映画祭にすべきとの観点から、「才能ある監督の発掘と育成」に焦点をあててまいります。JCF学生映画祭は、「若者の夢を引き受ける仕組みをつくる」という観点から、若者の才能や努力を引き出し、育成するステージを創造していきます。



ジャパンコンテンツ
フォーラム&FESTIVAL

2015年2月22日 米子ピクチャーズ
コンテンツアワード2015開催決定!

アニメ部門とフジテレビNEXTsmart presents
ステーションIDムービー部門の2部門を設置!!

- 開催概要
- 開催日：2015年2月22日(日)
- 場所：中海テレビ・DreamStagePass(予定)
- 主催：ジャパンコンテンツフォーラム&FESTIVAL2014実行委員会
- 企画・運営・制作：CNCs 張映画社 YONAGI 京都フィルム

フジテレビNEXTsmart presents
ステーションIDムービー部門作品募集中!!

「フジテレビNEXTsmart」の
公式チャンネルキャラクター「ネクスマオ」の
ステーションID映像を作って応募しよう!!
応募期間 12月10日(水)~1月30日(金)

詳しくは
公式HPを
チェック!



ジャパンコンテンツフォーラム&FESTIVAL2014 公式HP:www.japancontentsff.com/



www.jcf.jp.com





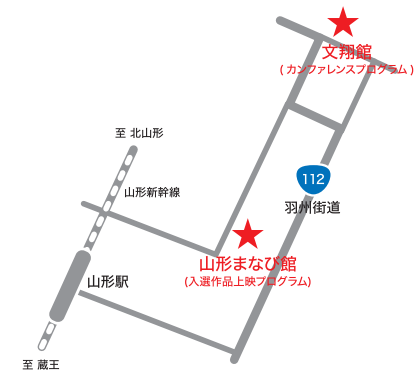


実行委員・顧問・審査委員

	<p>□チェアマン 藤原 洋</p> <p>1954年福岡県生まれ。1977年京都大学理学部卒業。東京大学工学博士(電子情報工学)。日本アイ・ピー・エム(株)、(株)日立エンジニアリング(株)アスキーを経て、動画画像符号化方式の研究・標準化活動を行いMPEGの創設に参画。1996年12月、インターネット技術に関する研究開発企業(株)インターネット総合研究所を設立。同社代表取締役所長に就任。現在に至る。2005年宇宙・環境エネルギーベンチャー(株)ナオトニクス・エナジーを設立。同社取締役会長。2012年4月、(株)ブロードバンドタワー代表取締役会長兼社長CEOに就任。現在、(財)インターネット協会副理事長、慶應義塾大学環境情報学部特別招聘教授、慶應義塾大学大学院プロジェクト研究教授、SBI大学院大学副学長を兼務。2010年4月大学共同利用法人自然科学研究機構経営協議会委員、2011年4月独立行政法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)宇宙科学評議会評議員、2013年12月総務省ICT新事業創出推進会議構成員、2014年1月電波政策ビジョン懇談会構成員に就任。</p>
	<p>□実行委員長兼審査委員長 高 秀 蘭</p> <p>台湾テレビのプロデューサーとしてキャリアを積み、1986年ニューウェイブを設立。以降、中国語圏の優れた監督の製作・配給に関わってきた。カンヌ映画祭グランプリを受賞した台湾の侯孝賢(ホウ・シャオ・シェン)監督の「悲情城市」(1988年)、「戲夢人生」(1991年)のプロデュースを始め、中国の張芸謀(チャン・イーモウ)監督の「紅夢」(1991年)、「活着」(1994年)、「上海ルージュ」(1995年)、何平(ハーピン)監督の「哀戀花火」のポストプロダクションを務めた。陣凱歌(チェン・カイコー)監督とは「さらば、わが愛」(1993年)、「霸王別姫」(1993年)／カンヌ映画祭パルムドール受賞、「花の影」(1996年)「始皇帝暗殺」(1998年)。その他「鳳凰わが愛」(2008年)、新宿インシデント(2009年)のプロデュースを手掛ける。</p>
	<p>□顧問 山田 長満</p> <p>昭和22年10月1日 鹿児島県生まれ。慶應義塾大学大学院商学研究科修士課程修了。平成19年10月 株式会社経理バンクホールディングス 代表取締役社長に就任。昭和61年10月 一般財団法人日本起業家協会 理事長に就任。平成16年11月 川崎商工会議所 副会頭を経て、平成22年11月 川崎商工会議所 会頭に就任。</p>
	<p>□顧問 吉村 和文</p> <p>1992年ケーブルテレビ山形設立。代表取締役専務を経て、2011年代表取締役社長に就任。2004年山形市の中心商店街・七日町にある老舗映画館を引き継ぎ、地元企業とともに映画興行会社MOVIEONを設立。代表取締役社長となる。2008年4月山形市鶴岡地区に東北最大級のシネマコンプレックス・MOVIEONやまがたをオープン。2006年より東北のケーブルテレビ局(現在16社18局)により広域ネットワークによる付加価値の創出、新事業の開発推進を目的として設立された株式会社東北ケーブルテレビネットワークの代表取締役社長も務める。</p>
	<p>□実行委員兼審査委員 大和田 廣樹</p> <p>大学卒業後、メディア関連のコンサルタント業務を経て、96年に株式会社インターネット総合研究所(IRI)の設立に参画。同社は、99年に東京証券取引所マザーズ市場の第1号として上場する。02年、IRIのデータセンター小会社の株式会社ブロードバンドタワー(BBT)の社長に就任。また、映画プロデューサーとしても「もんしゅん」(06)、「松ヶ根乱射事件」(06)、「ドルフィンブルー」(07)、「もういちど宙へ」(07)、「寄子」(08)、「ぐるりのこと」(08)、「ニセ札」(09)、「THE CODE/暗号」(09)などを手掛けている。現在は、活動の中心を台湾、中国に移し、日台合作テレビドラマ「木蘭花」のプロデュース。2011年6月には台湾に中国映画市場へ本格進出するために大唐国際娛樂股份有限公司を設立。中日韓台の合作映画やテレビドラマの企画に取り組んでいる。</p>
	<p>□実行委員兼審査委員 映画祭ファウンダー 太田 雅人</p> <p>1986年、学生時代にJCF日本サークル連盟を設立し、企業の広報宣伝活動と、学生の活動支援のコーディネートを行うビジネスを開始。1992年に(株)ゲッティを設立し、1999年に現(株)GETTIを設立して事業を統合し、2011年グループ持株会社体制に移行し現在に至る。1業種1社の企業と、学校法人・地方自治体をクライアントに、プティック型で展開するBranding&Consulting事業を行う一方、持株会社の代表者として、国内外のグループ会社と、創業時の大学時代に掲げたBoderlessCommunication>実現にむけて<世代間><地域間><国家間>の壁を超えるコミュニケーションの構築を目指している。株式会社GETTI GROUP 代表取締役。</p>

□**審査委員**



<p>短編部門 後藤 好邦 山形市役所総務部行革推進課/ 東北まちづくりオフィス ミーティング(東北OM)運営委員</p>	<p>短編部門 平野 雄大 フジテレビジョン総合開発局 メディア開発センターペイTV事業部</p>	<p>短編部門 忽那 高広 映像プロデューサー</p>
--	--	--

第13回JCF学生映画祭開催プログラム

<p>入選作品上映プログラム</p>  <p>【日時】11月12日(水)13時~18時30分、11月13日(木)~10時~17時 【場所】山形まなび館 【内容】入選短編作品、高校生・高専生監督作品上映(11月12日) 入選長編作品上映(11月13日)</p>	<p>カンファレンスプログラム</p>  <p>【日時】11月14日(金) 11時~13時 【場所】文翔館 【内容】スカラシップ検討会</p> 	<p>グランプリ受賞作品上映プログラム (第10回山形国際ムービーフェスティバル2014内)</p>  <p>【日時】11月14日 20時~20時45分 11月15日 16時50分~17時35分 【場所】MOVIEONやまがた(第10回山形国際ムービーフェスティバル会場内) 【内容】3部門グランプリ作品の発表披露上映</p> 
---	---	---

開催概要

13回目を迎える日本最大級の学生映画の祭典 東北で初開催!!

- 名称** 第13回JCF学生映画祭in山形
- 開催コンセプト** 次世代を担う才能の発掘・育成
- 開催日** 2014年11月12日(水)~11月15日(土)
- 開催場所**
 - ・入選作品上映プログラム:山形まなび館 山形市本町1-5-19
 - ・カンファレンスプログラム:文翔館 山形市旅籠町3-4-51
 - ・グランプリ受賞作品上映プログラム(第10回山形国際ムービーフェスティバル2014連携イベント):
MOVIEONやまがた(山形国際ムービーフェスティバル会場) 山形市嶋北1丁目2-2
- 主催** JCF学生映画祭実行委員会
- 共催** 一般社団法人 学生のチカラで日本を元気に
- 後援** 山形県/山形市/東北まちづくりオフィスミーティング(東北OM)
- 協賛**

- 特別協力**

- 協力** 第10回山形国際ムービーフェスティバル2014/NEWWAVE/ドリームキッド
- オフィシャルメディアパートナー**
 - 制作運営** JCF学生映画祭運営事務局
 - チェアマン** 藤原 洋(株式会社ブロードバンドタワー代表取締役会長兼社長兼CEO)
 - 実行委員長** 高秀蘭(映画プロデューサー)
 - 顧問** 山田 長満(川崎商工会議所会頭)
吉村 和文(山形国際ムービーフェスティバル運営委員長)
 - 実行委員** 大和田 廣樹(映画プロデューサー)
太田 雅人(株式会社GETTI GROUP代表取締役/JCF学生映画祭ファウンダー)
 - 審査委員長** 高 秀蘭(映画プロデューサー)
 - 審査委員** 大和田 廣樹(映画プロデューサー)
【短編部門】後藤 好邦(山形市役所総務部行革推進課/東北まちづくりオフィスミーティング運営委員)
【短編部門】平野 雄大(フジテレビジョン総合開発局メディア開発センターペイTV事業部)
【短編部門】忽那 高広(映像プロデューサー)
太田 雅人(株式会社GETTIGROUP代表取締役)
- 行事内容**
 - ◎コンペティションプログラム【短編部門/長編部門/高専・高校生部門】
 - ・入選作品上映プログラム
 - ・グランプリ受賞作品上映プログラム(第10回山形国際ムービーフェスティバル2014連携イベント)
 - ◎カンファレンスプログラム
 - ◎スカラシッププログラム
- 入場料** 無料(入退場自由)



www.jcf.jpn.com



www.jcf.jpn.com



◎入選作品

	学校名(学年)	氏名	タイトル	尺
短編部門 入選	デジタルハリウッド大学(3年)	三浦光理	アオハルは突然に...	3分5秒
	椎内北星学園大学(3年)	白石拓也	温泉街に、あかりをつけて。	20分
	東京外国語大学(3年)	棚井淑一	憶-おもい-	19分18秒
	慶應義塾大学(3年)	鯨岡弘織	君は東京が嫌い	24分
	日本大学芸術学部(卒)	田中亮祐	おひるねのやくそく	10分
	日本大学芸術学部(卒)	長瀬貴弘	ひこうクラブ	27分
	大阪芸術大学(卒)	中川玲	REACH	22分18秒
長編部門 入選	東京大学(3年)	井上統暉	GROWING	69分
	早稲田大学(卒)	饗庭廉人	悪人は誰だ	38分
	東京藝術大学(修士1年)	清水俊平	ふざけるんじゃねえよ	41分
	東京工芸大学(卒)	内田祐基	オールフレンド	68分
	早稲田大学(卒)	高橋良多	STELLA	60分
高校生・高専部門 入選	米子工専(3年)	糸賀輝明	トライアングHR	21分
	湘南学園高校(3年)	高橋慶	BE-ビー-	45分

第13回JCF学生映画祭表彰式
@東京情報大学千葉ステーションキャンパス

12月12日に行われた表彰式の様子です。藤原洋チェアマンと受賞者のみなさんです。



講評を述べる大和田廣樹審査委員

短編部門 グランプリ

相馬寿樹監督

長編部門 グランプリ

高杉麻子監督

高校生・高専生部門 グランプリ

上野瑛介監督

短編部門 準グランプリ

野村稔監督

長編部門 準グランプリ

太田貴寛監督

長編部門 審査委員 特別賞

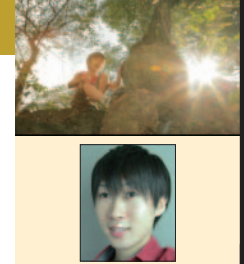
山脇航監督

短編部門 グランプリ作品

作品名/名前・所属
陽だまりの花 /
相馬寿樹・日本大学芸術学部4年【相馬組】

【作品介绍】「傷い記憶の中で、切なくも優しい不思議な体験」ある夏、実家に帰省してきた若者は地元少年と出会う。しかし、その出会いには切ない秘密があった。打ち上げ花火が弾ける時、傷い記憶が交錯して奇跡の瞬間が訪れる。

【メッセージ】私たちの映画作品を皆様に捧げる事ができて幸せでいっぱいです。撮影から1年4ヶ月、めぐりめぐって素敵な御縁に恵まれたことを心の底から感謝します。今作品は、スタッフ・キャスト、一人一人の財産と功績であり新たな出発です。これからは日本のみならず海外に作品を発信していきます。日本の文化・伝統・財産をしっかりと過去から受け継いだ上で広い視野を持ち、心臓が破けるくらいの感動を与える美しい映画をつくり続けます。



【プロフィール】注目を集める日本映画界の新鋭、21歳。優れた美的感覚で18歳より数多くの映画祭で受賞歴を誇る。21歳では地上波スペシャルドラマの監督・脚本を担当して史上最年少記録を樹立。20歳で日中合作ドキュメンタリー映画3部作などを監督してきた。本作「陽だまりの花」は映画祭で14つの賞を受賞。(現在も映画祭出品中)

長編部門 グランプリ作品

作品名/名前・所属
タマとわたし /
高杉麻子・日本大学芸術学部卒業

【作品介绍】フツの人間、園子はある日宇宙人をひろう。ケガをしていた宇宙人を「タマ」と名付け、一緒に暮らしていく...

【メッセージ】この作品は高校時代から撮りたいと思っていた作品でしたので、知らせを聞いたときは会社で大泣きました。主人公の園子と同じように、自分には映画しかないと分かっているにも関わらず、映画に対して諦めかけていた時だったからです。今思えばもっと出来たと思うところはありますが、こう思えたことが成長なんですよね。本当に関わってくれた皆さまありがとうございました!



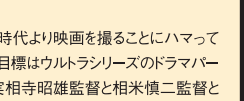
【プロフィール】女子校にも関わらず、高校時代より映画を撮ることにハマってしまい、日本大学芸術学部へ入学。目下の目標はウルトラシリーズのドラマパートの監督をやること。尊敬している監督は実相寺昭雄監督と相米慎二監督とステイプンスビルバーク監督。

高校生・高専生部門 グランプリ作品

作品名/名前・所属
道化師の悪戯 /
上野瑛介(國學院高校3年【映画研究部】)

【作品介绍】突然凶悪な殺人事件にまきこまれた10人の生徒たち。学校に閉じ込められた彼らは、家に帰るために出口を探すのだが...

【メッセージ】受賞の知らせを聞いた時は驚きました。この映画は、閉鎖空間でのサバイバルという、言ってみれば使い古されたネタを高校生なりの技量が強引にまともあげたものであり、高尚なテーマがある訳でもありません。一応あるメッセージは込めてはいますが、「ただの中身の無い映画」として受け取られてしまってもおかしき無いものでした。稚拙ではありますが、楽しんでいただければ幸いです。



【プロフィール】幼少時から映画が好きだったが、パニック映画やモンスター映画など、そのジャンルには偏りがある。中学2年生の頃に、「夏休みをまるまる使って映画を1本作る」という趣旨の「映画塾」というワークショップに参加。映画づくりの簡単なノウハウを学ぶ。ここでは映画の主演を務めた。翌年の中学3年の時にも映画塾に参加。脚本と演者を兼任した。今回の映画では、監督・脚本・演者を兼任している。

コンペティションプログラム
(短編部門/長編部門/高校生・高専生)部門結果発表

短編部門 準グランプリ作品

作品名/名前・所属
シューカツ(仮) /
野村稔・立教大学4年・【ノボリLAB】

【作品介绍】2014年、就活性の10%が死にたいと思っているというデータが発表された。就活を通じて、何度自分をごまかして、本心でない笑顔をしていたのか。ある企業のグループ面接に来た4人の就活生。それぞれの思いを胸に面接に挑むがそんな中映画サークル所属の住田は...

【メッセージ】この映画は立教大と慶応大の同世代5人で構成から話し合い、制作した映画です。全員が就職を控える中、自然と就活をテーマにすることに決まりました。やりたいことややるべきことの違いに戸惑う自分達。多くの人にこの映画を観ていただき、これから就職を迎える人は自分の将来を考えるきっかけに、既に社会に出ている人はかつての自分の決断を見つめるきっかけになると嬉しいです。



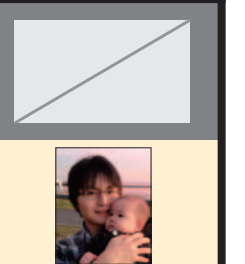
【プロフィール】1991年生まれ、立教大学現代心理学部映像身体学科4年。動画の撮影・編集からディレクション、静止面の撮影など行う。プロダクショングループ「DAZZLE」の第8回公演「二重ノ裁ク者」の映像制作や、舞台写真の撮影、企業PRの映像制作など幅広く活動するとともに、大学ではドキュメンタリー番組等の制作技術を学んでいる。

長編部門 準グランプリ作品

作品名/名前・所属
飛ぶツチノコ /
太田貴寛(日本大学芸術学部卒業)

【作品介绍】SF雑誌編集室で挿絵を描いていたイラストレーターの京子はやりがいのない仕事に飽き飽きしていた。ある日、突然、仕事をリストラされ、途方に暮れる故郷である長野に帰ることに。そこで同編集室の同僚であるヤスオと偶然の再会を果たす。

【メッセージ】関係者各位にこの場を借りてお礼申し上げます。賞を獲得する作品ではないと思いき、完成してから一度も出展していませんでしたが、今更応募してみました。応募してみてもよかったです。同級生の作品が、年頃の悩みが反映されたネタティブな作品が多かったので、「だから何だっつーの!」という気持ちをラストに込めました。



【プロフィール】在学中からカメラアシスタントとしてドラマや映画の現場に参加。卒業後はアニメの制作会社を経て、CM業界。現在は映像の仕上げを学び、オンラインエディター助手として修業中。フリーランス。

長編部門 審査委員 特別賞

作品名/名前・所属
刹那 / 山脇航(立命館大学3年)【GREENS】

【作品介绍】「死にたかった、でも死ねなかった。僕は透明人間以下だ」主人公のケンが踏切で自殺を図るが、偶然にも助かってしまう。助かったことにショックを受けるケン。しかし退院後、自分が助かったのは決して偶然ではなかったことを知る。そんな時、ケンはある少女と出会う。

【メッセージ】私が監督を務めさせていただいた「刹那」が審査委員特別賞という素晴らしい評価をいただき大変うれい思っています。横浜線踏切人身事故をニュースで見た時、疑問と共に例えようもない怒りを覚えたことがこの作品を作ろうと考えたきっかけでした。私は高校生の時の経験を元に、自分の持つ強い思いを作品にこめました。うまくいかなかったかもしれませんが、自分の伝えたい「何か」を一つの形で表現できたことがうれしいです。



【プロフィール】立命館大学映像学部映像学科三回生。映像制作団体GREENS所属。1994年生まれ。20歳。映像制作団体GREENSでは、企ごとに様々な役職で映像制作に取り組み、「刹那」では監督・脚本・編集を務める。長編監督に関しては今作品が初めて。

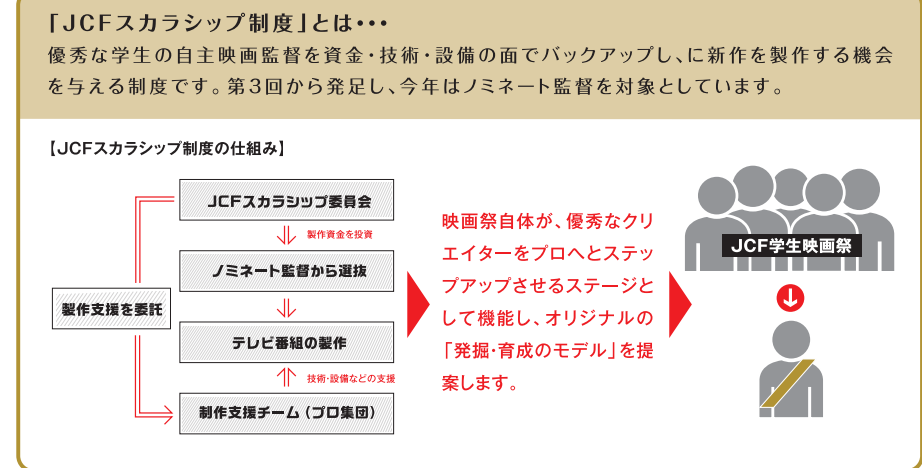
JCF 学生映画祭の軌跡

□1999年2月/ゆうばり国際ファンタスティック映画祭の10周年企画として第1回JCF学生映画祭開催。 □2000年2月/第2回JCF学生映画祭開催。全国に認知され、300を超える応募作品があつまる。 □2001年2月/第3回JCF学生映画祭開催。グランプリ受賞監督に投資し、プロのスタッフと共に映画を制作する機会を与える「JCFスカラシップ制度」が始動。 □2002年5月/「JCFスカラシップ制度」により、第3回グランプリ受賞監督の新作がクランクイン。 □2002年7月/アジアへの展開を視野に入れ、沖縄県那覇市にて第4回JCF学生映画祭開催。アジアムービーフェスティバルを同時開催。香港・台湾・中国・韓国のアジア4地区から学生監督を招待。 □2004年3月/東京・お台場にて第5回JCF学生映画祭開催。 □2004年5月/東京(6月6日)・名古屋(7月3日)・神戸(9月6日)にて記念上映会を実施。 □2005年3月/愛・地球博(愛知万博)のパートナーシップ事業として、愛知万博会場にて第6回JCF学生映画祭開催。 □2005年11月/「JCFスカラシップ制度」により、第5回グランプリ受賞監督の新作が、テアトル池袋で公開上映。 □2006年3月/運営を完全に学生だけ行形の前編に移し東京・上野の東京国立博物館で開催。 □2007年2月/夕張財政破綻の報を聞き、JCF学生映画祭が生まれた夕張の地に恩返しをすべく、夕張国際学生映画祭2007を夕張の地で開催。 □2008年2月/2007年に引き続き、夕張国際学生映画祭2008を夕張の地で開催。 □2011年11月/鳥取県米子市にて第10回記念を開催。映画部門の他、アニメ部門、鳥取観光CMアイデア部門や開催地の米子市でのアニメ・映画イベントをつなぐ、【米子クリエイティブブリッジフォーラム】や10回記念開催で歴代入賞監督で映画の第一線で活躍するを招いたフォーラムの実施。 □2012年9月/鳥取県助成で2年連続開催で映画部門、アニメ部門を開催。特別企画として、米子市助成の【ヨナゴコレクション】ファッションショーを開催。 □2013年10月/3年連続で鳥取県助成で米子市で9月から10月に開催される、クリエイティブイベントの【ヨナゴワンダー】の最終日に開催。映画部門、アニメ部門に加えマンガ部門を新設開催。

<p>第1回</p> <p>ゆうばり国際ファンタスティック映画祭 10周年特別協賛企画 第1回JCF学生映画祭</p> <p>★1999年2月21日 ★夕張市民会館特設ホール</p> <p>【受賞監督】 グランプリ「The Fates〜フエイツ」 監督:藤島 明(東京芸術大学) 準グランプリ「CAFE ON THE NIGHT」 監督:小野寺 圭介(北海学園大学)</p>	<p>第2回</p> <p>ゆうばり国際ファンタスティック映画祭 協賛企画 第2回JCF学生映画祭</p> <p>★2000年2月19-20日 ★夕張市民会館シネサロン</p> <p>【受賞監督】 グランプリ「美人魚(鮫)マッサージ」 監督:藤島 圭治(早稲田大学 第二文学部) 準グランプリ「ヒーローと妻」 監督:花見 正樹(関西大学 工学部)</p>	<p>第3回</p> <p>ゆうばり国際ファンタスティック映画祭 協賛企画 第3回JCF学生映画祭</p> <p>★2001年2月16-17日 ★夕張市民会館シネサロン</p> <p>【受賞監督】 グランプリ「鏡」 監督:仲井 隆(早稲田大学 社会科学部) 準グランプリ「帰ってきたあいつ」 監督:松川 さやか(大阪芸術大学 映像学科)</p>
<p>第4回</p> <p>第4回JCF学生映画祭 in 沖縄</p> <p>★2002年7月3-7日 ★那覇市リウほうホール</p> <p>【受賞監督】 グランプリ「さくらの夢」 監督:木村明子(日本大学) 審査員特別賞「床下水面下」 斉藤ゆき(武蔵野美術大学)</p>	<p>第5回</p> <p>第5回JCF学生映画祭 in お台場 大江戸温泉</p> <p>★2004年3月20日 ★大江戸温泉</p> <p>【受賞監督】 グランプリ「パラノイア」 監督:月川 翔(成城大学 法学部) 準グランプリ「LOVE JACK」 監督:有田 豊広(慶應義塾大学 環境情報学部)</p>	<p>第6回</p> <p>第6回JCF学生映画祭 in 愛地球博 EXPO</p> <p>★2005年3月31日 ★愛地球博 EXPOホール</p> <p>【受賞監督】 グランプリ「飛龍」 監督:松本明子(日本大学芸術学部) グランプリ「たれたれ」 金澤麻由子(京都府立芸術大学)</p>
<p>第7回</p> <p>第7回JCF学生映画祭</p> <p>★2006年9月23-24日 ★東京国立博物館</p> <p>【受賞監督】 グランプリ「シリアンダ」 監督:清水勉(大阪芸術大学卒) 準グランプリ「このほり」 監督:辻下直美(慶応義塾大学卒)</p>	<p>第8回</p> <p>夕張国際学生映画祭2007</p> <p>★2007年2月25-28日 ★夕張市 ホテルシユーパロ</p> <p>【受賞監督】 顕学賞「HAPPY NEW YEAR」 監督:イスマエル Michal Hagi 夕張Students' Conception グランプリ「チーム [SONTRY]」 坂本達夫、松村泰也(東京大学) Short Movie Award グランプリ「KOTATSU」 監督:五十嵐 拓(東京工科大学)</p>	<p>第9回</p> <p>夕張国際学生映画祭2008 国内学生映画AWARD</p> <p>★2008年2月22-24日 ★夕張市 ホテルシユーパロ</p> <p>【受賞監督】 グランプリ「少年少女」 監督:小栗はるむ 準グランプリ「true tune」 監督:初野一英</p>
<p>第10回</p> <p>第10回JCF学生映画祭 in Tottori</p> <p>★2011年11月19日~20日 ★米子市 米子コンベンションセンター</p> <p>【受賞監督】 映画部門グランプリ「HOLD UP」 監督:斎藤弘明 アニメ部門グランプリ「街を背負う男」 監督:井上 有希</p>	<p>第11回</p> <p>第11回JCF学生映画祭 in Tottori</p> <p>★2012年9月14日~15日 ★米子市 米子コンベンションセンター</p> <p>【受賞監督】 学生映画賞「渡秋」 監督:斎藤弘明(早稲田大学院) 学生アニメ賞「夜から来た人々」 監督:澤浩子(東京芸術大学大学院)</p>	<p>第12回</p> <p>第12回JCF学生映画祭 in Tottori</p> <p>★2013年10月14日 ★米子市 米子コンベンションセンター</p> <p>【受賞監督】 学生映画賞「漁火」 監督:沢田啓吾(日本映画学校卒) 学生アニメ賞「LINE LINE」 監督:西村凌二(デジタルハリウッド大学) 学生マンガ賞「さだかさんのおんがえし」 幸村佳直(宝塚大学)</p>
<p>第13回</p> <p>第13回JCF学生映画祭 in 山形</p> <p>★2014年11月12日~15日 ★山形まなび館・文理館・MOVIEONやまがた</p> <p>【受賞監督】 短編部門グランプリ「陽たまたまの花」 監督:相馬寿樹 長編部門グランプリ「タマとわたし」 監督:高杉麻子 高校生・高専生部門「進化師の悪戯」 監督:上野 圭介</p>	<p>“第14回JCF学生映画祭は、 9年ぶりに東京開催が決定”</p>	

JCF 学生映画祭スカラシップについて

映画祭自体が、優秀なクリエイターをプロへとステップアップさせるステージとして機能します。



~今年のスカラシップについて~

第13回 JCF学生映画祭 in 山形

入選作品の監督からスカラシップ対象者(10名)を選考

「第13回JCF学生映画祭 in 山形」の優秀監督が、地域活性化情報番組を制作!

スカラシップ対象監督は、12月発表予定

地域活性化情報番組

過去のJCFスカラシップ制度 対象監督

<p>学生映画の魅力は、「映画監督になりたい」という夢を持つ若者が、粗削りであっても、自らの夢やありったけの情熱、想いをこめて「映画作品」を紡ぎだすことにあります。制作費用やテクニックの面でプロには及びませんが、作品に込められた思いのたけや輝く才能の原石と接することで、観るものに感動と将来への期待感、ワクワク感を与えます。JCF学生映画祭は、「若者の夢を引き受ける仕組みをつくる」という観点から、若者の才能や努力を引き出し、育成するステージの創造を目指しており、現在までに多くの才能を輩出しています。</p>	<p>第3回JCF学生映画祭へ「鶴譚(ぬえたん)」を出品。グランプリを受賞し2002年の「JCFスカラシップ作品」として、オキナワコンテツラボにて沖縄県協力のもと沖縄出身俳優、スタッフ等プロを起用した短編映画「364days」を制作。その後、オキナワ・ショート・ショート・フィルムフェスティバルの開会式にて上映された。またこの実績により学生の課外活動において優れた成果を挙げた者に贈られる2001年度「早稲田文化賞」を受賞。</p>
<p>仲井 陽</p>	<p>第5回JCF学生映画祭へ「パラノイア」を出品。グランプリを受賞し2004年の「JCFスカラシップ作品」として「函館港イルミネーション映画祭」の第7回シナリオ大賞受賞作である「ノーマン・ガールズ」(作: 森田剛行氏)を映画化する。昨年11月に劇場公開された本年3月22日にDVD化された。他にも「呼吸」「エクリプス」「僕は存在していた」などを制作。東京芸術大学の大学院に進学し北野武監督等に師事。2010年フランスのルイ・ヴィトン短編映画賞「ルイ・ヴィトン・ジャーネース・アワード」でグランプリ受賞。</p>
<p>渡辺 崇</p>	<p>第10回JCF学生映画祭映画部門へ「HOLD UP」を出品。グランプリを受賞し2011年の「JCFスカラシップ作品」として、鳥取J2チーム ガイナーレ鳥取の選手会を起用し、ガイナーレ・ソーラーのCMを制作。</p>
<p>月川 翔</p>	<p>第10回JCF学生映画祭アニメ部門へ「街を背負う男」を出品。グランプリを受賞し2011年の「JCFスカラシップ作品」として、鳥取砂丘をモチーフにした「さきゆうくん」を主人公とした鳥取県の公式観光CMを制作。2012年1月~3月放送、関西エリアのサンテレビ番組「MissCam.TV」のオープニング映像を制作。</p>
<p>齋藤 弘明</p>	<p>井上 有希</p>



www.jcf.jpn.com



www.jcf.jpn.com

